

(裏面へ)

題材法話

○語り合い、尋ねる

聞法の世界

浄土真宗は、私からの働きかけではなく、阿弥陀様からの呼び声を聞かせていただくことから、聞法の世界といます。ですが、単に聞き放しではなく、蓮如上人は『聞法において大切なことは聞いたことについて人と語り合い、疑問があればすぐ尋ねることである。』と聞法の心得を示しておられます。わからないことや聞き足りないことがあれば、その場で尋ね話し合うことが大切です。梅鶯仏教壮年会がそのような場になることを念じています。

○いろんな宗教
行きつくところは
みな一つ？

どのような宗教も、教えや信仰の対象は違うけれども、道筋が同じだといきつくと、いちおうもつともらしく聞こえますが、これは宗教といふものをほんとうに理解していない考え方だと言わねばなりません。まず、それぞれの宗教のいきつく先を、この私のいきつく先として見ると、どこでしようか？その上でどれも同じいき先だと受け止められるでしょうか。また、それぞれの道筋も、この私がたどる道筋として受け止めての上でしようか？宗教はこの私がたどり行くつく問題であり、人ごととしてどの宗教も同じだと規定することは全く意味のないことです。親鸞聖人は命がけでたどりついたお念仏を、『よくよく案ずるに、親鸞一人がためなり』と、阿弥

陀様と一对一の関係で味われました。そのお心を是非ともたずねさせていだきた

○無病息災 金運開花
これって宗教ですか？

仏教では私たちのことを、「煩惱具足の凡夫」と呼びます。これは、生老病死の四苦から逃れることができず、常に欲に悩み続ける存在であるということです。老いること、病むこと、死ぬことは恐ろしいことです。毎日を振り返れば、思い通りにならないことに悩むことが多くあり、その悩みは尽きることがありません。ですが、生老病死はごく自然な姿であり、欲の悩みが尽きないからこそ人間でもあるのです。もしも祈るだけで病気が治り、願いが叶うのであれば、それは人間そのものの否定でありません。人間の弱みに乗じた宗教は、私たちの根本的な問題の解決にはならず、

はたして、宗教ともいえないでしょう。

「ありのままを
ありのままにみる」
それが仏教です。

問題を解決するには、目をそらさずまず直視することが大切です。仏教も生老病死の四苦の問題や、欲に悩むことの問題を解決することとが目的であることには変わりません。ただ大きく違うのは、まず、その原因を知ることから始まるのです。その原因を見極めた上で根本的な解決を目指すのです。仏教が論理的宗教と言われる所以がここにあり、根本的仏教が教える原因、根本的解決方法について共に聞法していきましょう。

